

テーマ『自然～カブトムシ～』

園庭や散歩先で昆虫を探したり捕まえたりする姿がよく見られている。そんな中、5月にカブトムシの幼虫を保護者からいただけることになった。これを機に自分たちで身近な生き物の生態を自分たちで調べたり考えたりして興味関心が広がって欲しい。また、生き物が成長する過程を知り、命の大切さに気付いていってくれたらいいと思った。

土の中には何がいるかな？

〈5月からの様子〉

土の中って何がいるんだろうと子どもたちと考えたり調べたりして描いてみる。

保育者「ここは土の中だよ。何がいるかな」

子「アリがいるかな」「ミミズもいる」「モグラもいるかも」「ダンゴムシと幼虫がこの前出て来たよ」

保育者「何の幼虫だった？」

子「アリの幼虫？」「ヘラクロスオオカブトの幼虫だったと思うな」

保育者「描ける？」と促してみる。自信がない子には図鑑や絵本をすすめてみる。

見ながらだったらチャレンジできる子も多い。

みんなが描いた絵を繋げてみたり、大きく繋げた画用紙にイメージしながら描いていったりしながら土の中を共同で描いていった。



〈振り返り〉

- ・保育者が思いもよらない生き物が出て登場したり、子どもたちも色々とイメージを膨らませて考えていく事が出来ていた。
- ・思ったものを絵に描いていく楽しさや出来たものが友達の絵と繋がり広がっていく事を楽しんでいた。
- ・自分が上手く描けなくても、皆で描く事で完成したものが形となる事で喜びを感じている三歳児の姿があった。



〈6月からの様子〉

カブトムシを育ててみよう！

保護者からカブトムシの幼虫をもらえることになり、皆で飼育していく。保育者も一緒になって子どもたちと図鑑を開き、一緒に考えながら飼育していく。

子ども「なんで土の中にいるのかな」「何を食べるの?」「どうやってカブトムシになるの?」と、興味が尽きない。

“飼育と観察”という図鑑を見て子どもたちと調べてみる。「土を食べるんだって」「汚いところが嫌いです」だって。と一緒にウンチの掃除をしたり、霧吹きで土を湿らせたりお世話をする。

蛹になる直前、観察しやすいように細い筒状のものに移すが環境が合わず、また大きいケースに戻す。見えなくなると子どもたちも心配しているのでケースの手前側に人口の蛹室を作り、カブトムシを移動すると子どもたちが見えるところで蛹になる。

毎日「今日もまだ寝てる」と確認している。6/20羽化する。



〈振り返り〉

- 子どもたちが「何を食べるのかな」と疑問に思ったことを調べたり、知っている人に聞いてみたりと興味を示し、「寝てるから静かにね」と生き物を大切にしている姿が見られた。
- 日々、変化がないかを気かけ、羽化した時の喜びを感じていた。
- 虫との関わりを通して、生き物を大切に気持ちが芽生えていった。